

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

215

2016年
3月-4月



CLOSE UP

大道会の介護サービス ②介護老人保健施設グリーンライフ

OMICHI ACADEMY

第45回北米神経科学会
2015年米国神経リハビリテーション学会
第14回国際歯科麻酔学会議

OMICHI SCRAMBLE

2年目職員フォローアップ研修会を開催
森之宮病院歯科診療部旭吉直部長の論文が英雑誌に掲載

INFORMATION

第300回健康教室記念講演会を開催
第9回森之宮病院登録医総会



最優秀賞
「Live30」
雑誌「医療」2014年12月号において
最も優秀な医療情報誌として
日本医療振興協会
から表彰されました。



大道会介護サービスの取り組みを紹介するシリーズ第2回目は、介護老人保健施設グリーンライフです。グリーンライフは平成10年に創設された伝統ある施設で、医師や看護師、介護福祉士、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、支援相談員等多くの専門職が協力して、入所されている方や通所リハビリを利用される方の身体的、精神的なサポートを積極的に行っています。

※ご利用者の了解を得て写真を掲載しています。

グリーンライフでご利用頂けるサービス

施設入所 (要介護1～5の方)	家庭で生活するのが不安な方にご入所頂き、リハビリテーション、入浴、食事、レクリエーション等のサービスをご利用頂きます。
短期入所 [ショートステイ] (要支援1～要介護5の方)	ご家族の介護疲れや、病気、冠婚葬祭、旅行等で家庭での介護が一時的にできない場合にご利用頂く短期間の入所サービスです。
通所リハビリテーション [デイケア] (要支援1～要介護5の方)	家庭から日帰りでリハビリテーション、入浴や食事、レクリエーション等をご利用頂き、心身ともに豊かな生活が送れるよう、お手伝いします。
訪問介護 [ホームヘルパー] (要支援1～要介護5の方)	家庭にいながらご利用頂けるサービスです。調理、洗濯、買い物、掃除、更衣、入浴、排泄、外出等をサポートします。

社会医療法人大道会介護老人保健施設グリーンライフは、平成10年に城東区東中浜に開設されました。施設入所と短期入所(ショートステイ)のサービスから始まり、その後、平成18年に通所リハビリテーション(デイケア)、平成25年に訪問介護(ホームヘルパー)のサービスを開始。地域の皆様の様々なご要望に際えることのできる施設をめざしてまいりました。

グリーンライフの特色

1 認知症ケア

グリーンライフでは、よりよい認知症ケアをめざして平成22年より認知症ケア向上プロジェクトを立ち上げています。プロジェクトの構成は看護師、介護福祉士、リハビリスタッフ等からなり、様々な立場から認知症という疾患を多角的に捉え、認知症があるご利用者をチームで支えています。また、認知症ケアの専門性を高めるため、認知症ケア専門士の資格取得や施設外研修への参加等を積極的に行っています。習得した知識をプロジェクト内で共有し、日々の認知症ケアへ生かせるよう努めています。

新たな取り組みとしては、認知症カフェ「よつ葉カフェ」の定期的な開催を実施しています。地域で生活しながらも認知症に対する問題や悩みを抱えているご本人やそのご家族に「集う場」を提供していきたいと考えています。

2 リハビリテーション

グリーンライフでは、在宅復帰および在宅生活を支援するためにリハビリテーションを行っています。実際の生活に関わる中で何が大事であるのか、具体的にどのような介護サービスの利用が良いのか、ご自宅での生活が最適となるようにご利用者ご家族も含めて各専門職種が集まり、チームで話し合いを進めます。この過程において、リハビリスタッフは

ご利用者の能力を把握し、実際の生活で生かせるようにします。心身機能を維持・改善しつつ、住宅改修も含めて機器や自具を使って環境を整え、必要があれば適切な介助により、できる活動を増やし、生活場面で取り入れて頂けるようにします。そして、活動が継続し、参加できる場があることが何よりのリハビリになります。この活動参加をマネジメントしていくことがリハビリスタッフの役割だと考えています。

3 在宅復帰支援

グリーンライフの役割に「在宅復帰支援」があります。入所された方が安心してご自宅での生活に戻ることができるよう、サポートしています。ご利用者一人ひとりが抱える課題は様々です。話し合いを重ね、信頼関係を深めながら、看護、介護、リハビリ、栄養士、相談員等の関係職種が、計画的にそれぞれの専門的視点で支援を行い、在宅復帰を進めていきます。



もちろん在宅復帰後も、在宅関連の部署の機能を生かして、通所リハビリ、訪問介護、訪問リハビリ等のサービスで生活を支えます。もし、検討を重ねても在宅に戻れない場合は、意向に沿いながら、ご利用者に合った方向を提案します。施設からご自宅まで寄り添った関わりを大切にしています。

部署紹介

療養2科(入所・ショートステイ)

療養2科は認知症対応のフロア(定員50名)となっており、施設入所とショートステイご利用者で、認知症が重度の方から軽度の方まで幅広く利用されています。ご利用者との関わりを重視し、小さな訴えにも対応できるようフロアにスタッフを常駐させています。



認知症のご利用者にとつて安心・安全に過ごして頂ける環境をめざして、多職種との連携を図り、質の高いケアを提供できるように日々努力しています。

療養3科(入所・ショートステイ)

療養3科では、他職種と連携し、ご利用者ご家族の希望に寄り添いケアを行っています。日々の業務ではリハビリスタッフと協力して、在宅復帰やADL(日常生活動作)の維持ができるよう、自主訓練の取り組みにも力を入れています。



また、ショートステイを繰り返し利用される方も多く、様々な理由による緊急ショートステイにも対応しています。ご利用者ご家族が安心して利用できるよ

う、日々取り組みに磨きをかけています。

通所リハビリテーション(デイケア)

写真はリハビリスタッフを含むデイケアの職員です。ボバースアプローチに基づくリハビリと、創意工夫した活動で地域の在宅高齢者の支援をしています。一人暮らしでご自宅にこもりがちの方からも、「デイケアの時間が楽しい」との声を頂けています。



これからも一層地域に密着した活動で、より健やかに楽しみを持って在宅生活を続けて頂けるよう、職員一同、精一杯頑張ります。

ヘルパーステーション

当事業所は施設の1階にあり、デイケアや入所フロアと連携を取りながらデイケアの送り迎えや退所者をご自宅で安心して暮らしていただけるように、入浴介助や掃除、調理等の支援をしています。



また、ご利用者のニーズに合わせたケアを行うとともに、ご利用者の体調の変化にも気を付け、介護技術・知識を用いて適切な援助を行います。不安や悩み事がありましたらいつでもご相談下さい。

今後の展開 「地域と共に歩む施設作り」

グリーンライフでは、ご紹介してきた4つのサービスを密接に絡めながら、在宅支援はもちろんのこと、これからは認知症ケアや終末期ケアについても、今まで以上に取り組んでいきます。

しかし、これらの支援はグリーンライフだけの力では到底できることではありません。地域の主役であるご利用者に対して、大道会の各施設、地域の各専門職や自治体の方々と連携が成立してこそ、支援の形ができていくのだと思います。今後、地域包括ケアシステムの構築が急がれる中、介護老人保健施設グリーンライフの役割とは何なのか。それは「いつでも、何度でも、安心して利用できる施設」ではないかと考えます。単に急性期病院と在宅との中間施設という考え方だけではなく、様々なステーションから利用して頂ける中間施設として、地域に認められる施設作りが使命であり、職員一人ひとりが誇りと自覚をもって地域課題への挑戦を続けていきたいと思えます。



次回予告

シリーズ第3回目は、特別養護老人ホームサンローズオオサカの介護サービスをご紹介します。乞うご期待下さい!!

発表報告

第45回 北米神経科学会



森之宮病院
神経リハビリテーション
研究部
河野 倣司

今後も脳波位相同期の
有用性についての知見を
増やしていきたい

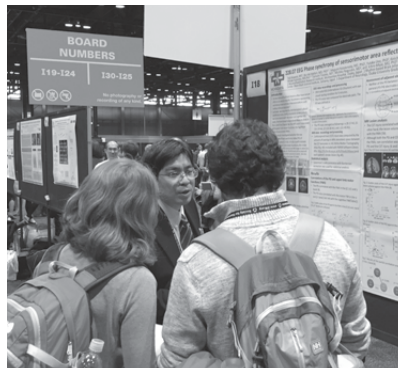
日程：2015年10月17日～21日
場所：米国イリノイ州シカゴ

今回、シカゴで開催された Neuroscience 2015に参加し、「[EG phase synchrony of sensorimotor area reflects limb functions after stroke]」というテーマで発表しました。本研究は、理化学研究所脳科学総合研究センターとの共同研究として実施したものです。

脳卒中では脳の神経ネットワーク全体の機能も低下し、機能障害やADL低下の原因となります。昨年我々は、脳波位相同期と呼ばれる手法を用いて、左右半球間の脳波位相同期が回復期脳梗塞患者のADLスケール (Functional Independence Measure: FIM) と有意な相関を示すことを報告しました。このことは、左右の半球間の同期が高いとADLも良好であることを意味しています。一方で、上下肢運動機能スケール (Fugl-Meyer Assessment: FMA) と半球間の脳波位相同期は全く相関を認めませんでした。FMAも重要なアウトカムであるため、さらに検討を続けた結果、左右運動野付近の脳波位相同期が上肢のFMAと有意な相関を示すことが明らかになりました。また、MRIから

得られた錐体路のダメージの程度もFMAとは相関を示すものの、脳波位相同期と錐体路のダメージの程度は直接相関せず、これらは異なるメカニズムに依ることが示唆されました。

今回の Neuroscience 2015 は世界80カ国以上から、約2万9000人が参加した大規模な国際学会でしたが、関心を持った多数の研究者からご質問を頂き、非常に有意義な発表でした。今後データも蓄積し、脳波位相同期の有用性についての知見を増やしていきたいと考えています。



ポスター前で質問に答える河野医師

発表報告

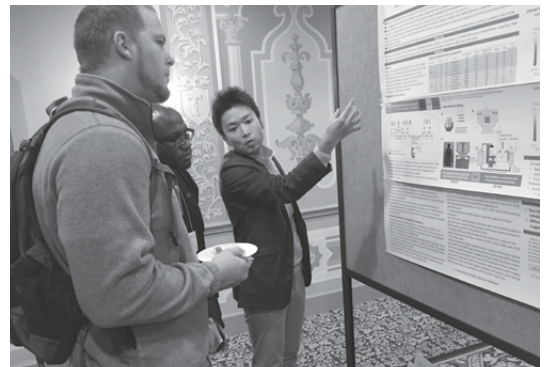
2015年米国神経 リハビリテーション学会



森之宮病院
神経リハビリテーション
研究部
藤本 宏明

今後臨床・研究に取り組み、
患者さんのADL改善に
貢献できるよう努力していきたい

日程：2015年10月15日～16日
場所：米国イリノイ州シカゴ



海外の研究者とディスカッションをしている藤本医師

10月15日～16日にシカゴで開催された米国神経リハビリテーション学会 (ASNR) の年次集会に参加しました。

前年にも同会に参加し、近赤外分光法を用いたニューロフィードバック手法によって、姿勢維持の改善効果が得られることを発表しました。今回の発表では、「注意障害を含む前頭葉機能低下が、ニューロフィードバック療法の効果に影響を与えるか？」について報告しました。発表時間は2時間と短かったものの、多くの研究者と有意義な議論を行うことができ、当院が先進的なりハビリテーション施設であるという世界的評価を高められたと考えます。また、引き続き、同会で開催された北米神経科学会議 (SFN) にも参加しました。神経科学領域では世界最大の学術集会で、世界中の研究者が集いますが、当院からは河野倣司医師が発表されました。

私の最大の目的は、世界的権威である Peter L. Strick 医師に質問することです。

発表報告

第14回 国際歯科麻酔学会議



森之宮病院
歯科診療部部長
旭 吉直

全身麻酔下歯科治療中の気道管理
について調査結果を発表

日程：2015年10月8日～10日
場所：ドイツ・ベルリン

10月8日から10日までベルリンで開催された第14回国際歯科麻酔学会議 (IFDAS 2015) に参加し、口演発表を行いました。

演題名は、「Factors influencing airway management by laryngeal mask airway during dental treatment under general anesthesia (全身麻酔下歯科治療中のラリンジアルマスクエアウェイによる気道管理に影響する因子)」で、内容は当法人において2012年からの約3年間にラリンジアルマスクエアウェイを用いた全身麻酔下歯科治療が実施された症例の気道管理について調査した結果、気道管理の安定性は患者の年齢、BMI、気道の変形と関連があったというものです。

3カ月前から発表の練習を始め、当日

参加報告



森之宮病院
画像診断部
画像診断科部長
田中 貫志

第31回日本診療放射線
技師会学術大会



旭 歯科医師 熱くプレゼンテーションを行う

はヘッドホン式のマイクを借りて身振りも加えたプレゼンテーションにチャレンジし、ミスなく最後まで話せました。ただ、ポスター会場ではうっかりウクライナ人の発表者に隣のロシア人のポスターについて質問してしまい、気まづい雰囲気になってしまいました。特別講演ではアフリカで活動している慈善団体の口腔外科医の話や聞くことができませんでした。長期間放置された頭頸部腫瘍の手術は圧倒的で感動的ときえ言えます。懇親会は国会議事堂内のレストランで開催され、まさにドイツの首都を体感しました。次回、IFDAS 2018は奈良で開催されるので、さらにレベルアップしてトライしたいと考えています。

画像診断における
読影補助の現状と展望を報告
住民とともに作る
地域医療 1%の力

日程：2015年11月21日～23日
場所：国立京都国際会館

読影の補助が法律で認められ、各施設では様々な工夫を凝らしています。消化管、CT、MRI等のレポートを電子カルテ内に反映して、素早く付けられるようにチェック方式にして、症例検討会等を積極的にを行い、技師の読影力向上に努めています。当院も技師全体の読影力がアップすれば、医師により有用な画像とレポートの配信ができます。

医療の原点は、まず病んでいる人へ手を差し伸べ命を助けることで、その為に救急医療や高度医療が大切です。しかし医療を受ける側は、それだけでは満足しません。温かい医療が欲しいのです。人は誰でも年をとり、いつか病気をし、亡くなる時を迎えます。そういう命のルールの中で、医療側は必ず助けたいと思っ取り組んでも、100%の人を助けることはできません。それは、患者さん達も分かっています。だから温かさが大事なのです。

救急医療や高度医療、予防医療には放射線の専門スタッフのサポートが必要で、がんを患っている人や脳卒中の人がCT検査にきたり、進行がんの患者さんが放射線治療を受けたりします。常に1%の温かな心で取り組んでいます。と、いつか医療が変わってきます。「助からなかつたけれど、あの優しい言葉

に救われた」等、お互いを理解し、納得できるように、地域の方々にも評価してもらえようになり、1%発想の転換をするだけで、医療が温かくなると思います。私達の職場である画像診断科においても、この1%に全力を注ぎたいと考えます。

次に、当法人画像診断科からの演題発表で「胸部ステントグラフト治療における展開角の検討について船越主任が発表しました。専門的な内容でしたが、司会者および会場内では、森之宮病院の技師はそこまで理解して検査に携わっていることに感心されていました。今後とも研究発表を積極的にを行い、森之宮病院の画像診断部を広めていきたいと思います。

参加報告



森之宮病院診療部
地域医療連携室
藤野 友理香

第26回
病院管理実務・実践講座

今後の地域連携業務の
在り方を学ぶことができた
日程：2015年9月10日
場所：大阪府病院年會館

社会医療法人生長会ヘルアンサンブル訪問看護ステーションの看護師、医療福祉連携士である村上佳代氏の講義では、地域医療連携室の職員や院内の医師だけではなく、栄養士やOT・PTも開業医への訪問に同行している医療機関があることを知り、まずは院内の他

職種への働きかけが地域連携を深めていくにあたって重要だと感じました。また、地域の開業医との連携も重要ですが、当院だけで全てをカバーすることはできないので、地域の病院との連携も重要だと気がきました。各病院の強みや空床情報が共有できるようなシステムがあれば、よりスムーズな連携ができるのではないかと思います。

高崎健康福祉大学・木村憲洋先生の講義では、地域医療連携室とは社会変化や時代のニーズに合わせて求められることも変化していく部署であることを再認識しました。今後は柔軟な考え方を発想を持ち、常に周囲へのアンテナを張りながら地域連携の業務に取り組みていきたいと思います。

また、病院運営の新たな取り組みとして、院内の看護師が介護施設へ出向いて、施設職員へ技術指導を行っている医療機関が紹介されました。介護施設側の医療行為や看取りの増加につながるだけではなく、病院側も実際に地域で暮らしている患者さんの様子を知ることができると、今後、このような取り組みを導入する病院が増加すればよいと感じました。

グループワークでは、今後の2025年問題に向けて、早くから院内で認知症患者の受け入れ体制作りを検討・強化している医療機関が多いことを知りました。私は元々、精神保健福祉士の資格を取得しているので、知識を生かして認知症患者や認知症病棟での取り組みについて等、今後の地域医療連携室内の勉強会で情報共有していきたいと思

法人全体

2年目職員フォローアップ 研修会を開催しました

平成27年12月12日に森之宮病院ウツデイホールにて、平成26年度に入職した新卒者、期中に中途入職した第二新卒者を対象に2年目フォローアップ研修を開催し、計58名が受講しました。

まず、グリーンライフ・ソーシャルワーカーの奥田主任による「地域包括ケア」についての講義からスタートしました。地域包括ケアシステムの概要、大道会・城東区・日本を取り巻く状況、将来、直面する課題等、多角的な視点から解説がありました。そのうえで、2年目職員として、これまで以上に熱心に業務に取り組み、他職種との連携を深めて欲しいとエールを送ら



れました。地域包括ケアに対する関心は高く、皆さん、熱心に聞き入っていました。

次に、森之宮病院リハビリテーション部・権名副部長、事務部・下里主任による「課題解決能力トレーナー講義」が行われました。トレーナー講義は一貫性のある講義プログラムとして、新人研修、1年目フォローアップ研修でも取り入れていきます。今回は過去のトレーナー講義からさらに発展し、今後の成長ビジョンを描いてもらいました。日々業務で直面している「現状・目標・問題・課題」を明確にし、他職種間で発表し合いました。

終了後のレポートでも「漠然としていた問題点や目標が明確になった」、「グループワークで違う視点の意見が聞けて視野が広がった」という意見が多く寄せられました。

研修で学んだことを土台とし、今後とも同期とともに力を伸ばして行ってほしいと思います。

(本部管理部人事課 柘井絢子)

グリーンライフ
森之宮病院
サンローズ
オオサカ

毎年恒例の レクリエーションを行いました



福笑いを
楽しみました

1月19日、グリーンライフ職員とご利用者で二人羽織と福笑いを楽しみました。

二人羽織・福笑いとともに、「もつと右!、もうちよつと下!」「上手!」等、周囲の声に誘導され大盛り上がり!

二人羽織では口紅を顎まで塗られ、頬紅は左右広範囲に…。おかめとひよつとこの福笑いも、声に合わせて上手にでき上がりました。新年の初笑いを皆さんと楽しめた良い時間でした。

(グリーンライフ療養サービス部2科 土井紀子)



子ども病棟に
鬼が来た

2月5日に森之宮病院3階病棟にて毎年恒例の節分の集いを行いました。

学童さんの紙芝居劇、歌の後、ついに赤鬼青鬼が現れ、子ども達は、キャー・キャー、怖いと言って泣き叫び、おりこうさんにしますと約束をし、その様子を大人たちは笑顔で見守っていました。

豆の掃除は毎年大変ですが、一年で一番楽しいひと時でした。

(森之宮病院看護部3階病棟科長 坂本久美)



もちつきを
行いました

平成27年12月28日にサンローズオオサカ1階玄関前にて「もちつき」を行いました。

家族会やボランティアの方の協力を頂き、また入所者やご利用者の方にも、もちをついたり、丸めて頂きました。ご利用者からは「ちよつと蒸しとつきが足らんねえ」と嬉しい言葉も…。

でき上がったもちは、きなこと大根おろし・あんこをつけて、皆で美味しく頂きました。

(サンローズオオサカ介護サービス課主任 松本正則)



森之宮病院歯科診療部旭吉直部長の論文が
英雑誌に掲載されました

脳卒中患者の歯科治療に関する情報は多くありません。この度、私と大道副理事長と新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野の小野高裕教授が共同執筆した「Oral status and medical problems of stroke inpatients undergoing rehabilitation at a rehabilitation hospital in Japan」

(リハビリテーションシヨンのために入院している脳卒中患者の口腔内状況と医学的問題)という論文がイギリスの老年歯科学雑誌(Gerodontology)に掲載されました。

内容は、脳卒中中の入院患者は、歯科治療の必要性が高く、治療時にモニタリングや止血管理が必要な場合が多いの

で、入院中に整った環境下に歯科治療を行うことは有効であるというものです。

今後脳卒中患者の歯科治療について情報発信していきたいと考えています。

(森之宮病院歯科診療部部長 旭吉直)

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#54



サンローズオオサカ
在宅サービス課
在宅介護支援センター

横田 隆作 主任

サンローズオオサカ在宅サービス課、在宅介護支援センターの横田主任を紹介します。

サンローズオオサカで入所の介護、在宅のケアマネージャーを経て、現在は総合相談窓口を専任しています。地域に根ざしたケアマネージャーをめざし実践してきたことから、地域高齢者の総合相談窓口相談員になってからも積極的に地域に出ていき、「何でも気軽に相談できる身近な丸いお兄さん」として毎日走り回っています。

昨年は地域住民の身近にある社会資源を老若男女問わず、楽しく知って頂く仕掛けとして、小学校校下で地域住民と福祉サービス事業者が顔の見える関係づくりを目標に福祉まつり「ほうえいさんぼり」を初開催。地域の全サービス事業者に協力を依頼し、協力事業者や行政とともに実施して300名を超える地域住民が参加しました。地域包括ケアシステム構築が言われているなか、地域住民が自分達の街を知るきっかけづくりを今年も企画しているようです。

(サンローズオオサカ介護サービス課主任 松本正則)

2015年4月より森之宮

病院乳腺センターにお世話になり、そろそろ1年が経とうとしていきます。乳腺外科医として乳腺疾患、主に乳がんの診療にあたっています。大阪南部に位置する前任地では病状の進行した高齢女性の患者さん(手術患者の4割強が70歳以上)が多かったのに対して、当センターでは乳がん

Medical Doctor's Voice #66

「森之宮病院乳腺センター」



森之宮病院
乳腺センター
野村 昌哉

ト、ソーシャルワーカーおよび近隣施設の病理医や生殖医療専門医が密接に連携して早期がんから終末期医療までシームレスな診療が可能です。私自身は「患者さんに頼りにされる良きサポーター」でありたいと思ひ、病気の話だけではなく、患者さんの趣味や日々の楽しみについての会話を交えながら診療にあたるよう心掛けています。そのためには自分自身も健康やかな心身を保つことが大切と思っています。音楽愛好家で、ジヨギングや登山が趣味の私にはここ森之宮病院は願ってもない環境です。関

除する)と整容性(乳房をいかに美しく残す、または再建する)を両立させた手術、妊孕性(将来の妊娠・出産の可能性に備える)に充分考慮したうえで、の薬物療法等に特に力を入れています。当センターでは最新の医療機器が揃った環境の中で、乳腺外科医、形成外科医、乳腺センター専従看護師、放射線科技師、薬剤師、セラピス

西を代表するコンサートホール(いずみホール)やフェスティバルホールは至近距離ですし、大阪城公園の素晴らしいジヨギングコースは病院のすぐそばです(晩秋の銀杏並木の綺麗なこと)。これからも乳腺センタースタッフ一丸となって、患者さんの期待に十分応えるべく日々努力していきたく考えています。

第300回健康教室記念講演会を開催しました

平成27年12月17日、認知症をテーマとした第300回健康教室記念講演会を森之宮病院ウディホールで開催しました。初めに、大道理事長から「最近、高齢者の方々の中では、『がん』よりも『認知症』の方が恐ろしい病気になっていると聞きます。今回の講演会のテーマである『認知症』を正しく理解して、家族や地域の方々とともに、私達も認知症の方々を支えていきたい」と開会の挨拶がありました。

続いて、介護老人保健施設グリーンライフの看護師である瀧口科長が「『地域で支えよう認知症』～認知症サポーター養成講座～」と題した記念講演を行いました。講演の中では、国が推進している「地域包括ケアシステム」や「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の概要や高齢者の身体的特徴、認知症の症状や治療を受けられる「認知症疾患センター」、認知症への関わり方のポイント等の説明がありました。



最後に、参加者の方々に今回の養成講座を受講した証として認知症サポーターオレンジリングが授与されました。

第9回森之宮病院登録医総会

2月13日、帝国ホテル大阪にて第9回登録医総会を開催しました。当日は、あいにくの雨となりましたが、27名の登録医の先生方にご参加頂きました。

今回、初めての企画で、帝国ホテルクリニックの見学会を行いました。ご参加頂いた先生方から『患者さんを紹介しているが、どのような環境なのか見学できて良かった』等のご意見を頂き、とても好評でした。講演会では、森之宮病院・小竹医師が登録医の先生方からご紹介頂いた3名の患者さんの症例を発表し、森之宮クリニック・細木副所長は『臨床医に役立つPET/CTの有用性』について、お話しさせて頂きました。

その後の懇親会では、普段、登録医の先生方とゆっくりお話する機会

が少ない当法人職員が、この時とばかりに先生方に話しかけていました。そして、それぞれの話の花が咲き、和やかな雰囲気の中で会が終了しました。

回を重ねるごとに登録医の先生方と当法人職員の関係が深まっていると感じました。また、地域の救急病院として登録医の先生方に必要とされていると改めて責任を感じました。

連携室スタッフ一同、この会で登録医の先生方にお会いできることを楽しみにしており、様々なご意見を頂き、気持ちが引き締まります。これからも地域の患者さんに安全・安心な医療が提供できるよう、業務に取り組んでいきたいと思っております。
(森之宮病院診療部地域医療連携室課長 杉浦美保)



ご寄付・ご寄贈を頂きました

福村博子様(枚方市)、中西邦彦様(大阪市淀川区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーティ】

2016年3-4月号 vol.215 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部

TEL 06(6962)9621

森之宮病院

TEL 06(6969)0111

ボバース記念病院

TEL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

TEL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

TEL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

TEL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

TEL 06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

TEL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

TEL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

TEL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

TEL 06(6974)7388

東成山学学園(保育園)

TEL 06(6974)7377

●大道会ホームページ

<http://www.omichikai.or.jp>

大道会



編集後記

立春も過ぎ、まだ寒さは続くものの春の訪れを感じる日も増えてきました。立春は、新しい年の始まりという意味。すでに今年に入りましたが、皆様は新しい目標もしくは自分のモットーは持っていますか？私が子どもの頃に入隊していたボーイスカウトでは、『備えよ、常に』でした。今でも私の大切なモットーの一つです。森之宮病院では、あじさい運動を展開しています。4月に入職される新社会人を迎えるにあたり、自分の健康や仕事、趣味に生かせるモットーを持って、2016年度を元気にモリモリ楽しんでみてはいかがでしょうか。(森之宮病院リハビリテーション部作業療法科主任 渡辺英利)